

※一般質問の内容は、議員自身が6月定例会議事録に基づき記述しています。



うえまつ けんいち
植松 健一
(至誠)

少子化対策について

問 今まで行ってきた少子化対策とその成果について。

部長 富士宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、平成28年度から婚活、結婚支援、子育て応援、母子保健、児童福祉、就労支援、移住定住などあらゆる施策を行い少子化対策に取り組んでいる。しかし婚姻、出産については残念ながら十分な成果が得られていない。

問 婚姻数を増やすことを最大の課題と捉え、本市独自の政策を考えて欲しいが、いかがか。

部長 まずは婚姻数を増やし、希望する子どもの数を産めるような環境の整備こそが最大の課題であると捉え、結婚、出産の希望が実現できる政策を中心に検討していきたい。

市長 少子化対策推進本部を組織した。全庁

的に取り組んでいくことが大事であると考えている。

企業誘致のための土地利用について

問 広範囲に産業振興ゾーンが設定されているのに進出した企業、工場は少ない。土地はあるのに進出してこない要因は何か。

部長 ゾーン内の多くが民有地であり、企業が進出するには土地の確保から始まり、都市計画法、農地法、森林法など関係法令の許認可が必要であったり、ゾーンの中に土砂災害警戒区域が指定されていて、その調整も必要となり高いハードルとなっている。

市長 富士宮市の北部地域には広い土地がたくさんあり、この地域の開発をうまくやっていきたい。土地を有効活用するための方策を考えていかなければならないと考えている。土砂災害警戒区域に指定されていることもあり、開発できる場所が少ないが、これから第6次総合計画を検討していく中において、土地利用についても合わせて色々時間をかけてしっかりと組立てをしていきたいと思っている。



さの かずや
佐野 和也
(明和)

富士宮市内における食品アクセス(買物弱者)問題の現状について

問 富士宮市における買物弱者と呼ばれる市民の数と割合について。

部長 買物弱者という法令用語はなく、国により統一的な基準で定義を明確にしたものも存在していない。本市においても定義は定めておらず、数についても把握はしていない。

問 ある地域では大手スーパーが移動販売に興味があるということを知ったが。

部長 大手のスーパーがそういった取組をしたと市のほうにも相談にきた。買物弱者については重要な問題ということで、庁内ではいろいろと協議をしているが、今のところは非常にうまくいっていると思っているため、見守っていきたいと思う。

富士宮市におけるこれからの観光について

問 国内外の観光客の誘致として、何か新しい取組は考えているのか。

部長 新しい取組として、VRを活用した誘客活動がある。VR技術を活用した没入感の高い動画でリアルに、行ってみたい、体験してみたいという気持ちから、実際の来訪につなげていきたい。

市長 富士宮市が国際文化都市と銘打っているからには、日本国中、世界中へそうしたPRを広げていこうと、今進んでいる。

問 富士宮市にゆかりのある著名人を観光大使にしたらどうか。

部長 富士宮市では、富士宮市観光協会が任命するミス富士山に担っていただき、積極的なPR活動に取り組んでいただいている。

市長 令和6年の話になるが、里見浩太郎さんに、流鏝馬まつりがあるときには甲冑が衣装を着てもらって出してもらおうとか、そんな努力も今している最中である。